

目的 方法はその一に同じ。

結果 食物選択行動を知るため、トマス地区における移住者の食生活内容と、生産物購入出来るものを調べた。

食生活内容については、これをその一と同じグループ分けにしてまとめてみると、1つのパターンにすることが出来た。3つのグループで共通の基本型があり、それにプラスされるものが3グループにより多少異なる。風土を異にする日本人社会という特種性のためか非常に伝統的な調理法、味覚が残り、材料は現地調達品であるが、日本の伝統食に近づける努力がなされている。

また、生きることは現地食になじむことという認識は皆持っているので、現地食もそれに合わせて取り入れられているが意外な結果になった。みそ、つけもの類の使用頻度が高い。

海草の入手が困難であるのに、海草を日常食に取り入れているのは民族性の現われであろうか。

生産物、購入出来るものは制限がある中で、現地食品を使用して日本の伝統食品に似たものが作られている。そこに、伝統的な食物の選択性は年月をへても残っていることが認められた。